

平成 30 年度第 2 回亀岡市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

□ 日 時 平成 31 年 3 月 22 日（金） 午後 2 時 00 分～4 時 00 分

□ 場 所 亀岡市役所 庁舎別館 3 階会議室

□ 出席者

委 員 安藤 会長、金田 副会長、
出口 委員、大石 委員、鳩崎 委員、野々村 委員、多胡 委員、中川 委員、
渋田 委員、河野 委員、石田 委員、吉田 委員（12 名）

欠席委員 中井 委員、山本 委員（2 名）

事務局 健康福祉部 こども未来課（5 名）
健康福祉部 保育課（3 名）
教育部 社会教育課（2 名）

□ 傍 聴 1 名

□ 次 第

1. 開会
2. 開会あいさつ
3. 協議事項
(1) 子ども・子育て支援事業計画 施策・事業の実施状況等について
(2) 第 2 期子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告
4. 意見交換
5. 連絡事項他
6. 閉会

□ 要 旨

1. 開会
・会議の運営等について説明（事務局）
2. あいさつ
・市あいさつ（吉田 健康福祉部子育て支援担当部長）
3. 協議事項（議事進行：安藤 会長）
(1) 子ども・子育て支援事業計画 施策・事業の実施状況等について
(2) 第 2 期子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告
⇒ **資料 1** 亀岡市子ども・子育て支援事業計画 施策・事業概要調書
に基づき説明（事務局）
⇒ **資料 2** 亀岡市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書（概要版）
に基づき説明（梶ぎょうせい）

4. 意見交換

・「3.協議事項」に関する質疑・意見交換

【委員】ニーズ調査の地区別の状況はわかるのか。

【事務局】地区別の状況については、必要があれば地区別のクロス集計をし、分析は可能。

【会長】地域性があるのかどうか。データが出たら検討していただきたい。

【委員】来年、学校規模適正化が行われる。小学校・中学校の校区の見直しは、保護者の話題になっている。学校規模適正化に関わる公聴会が今年2回ある。環境が変わる子どもに対する提案等、何も知らされていない状態が続いていて、周りの保護者も不安。

【会長】第1期の進行中、その中の1つとして位置づけられる。ニーズ調査は第2期だが、現状報告の中でこういう声が出ているという事だと思う。

【事務局】直接所管しているところが来ていないので、答えられない。

【委員】都市開発で千代川小学校校区は学童も満杯になる事が懸念される。まちづくりをする時に、都市計画と学校がリンクされていないのかと疑問に思う。学校は地域の核となるところなので、それに伴い影響が出てくる。都市整備と学校を関連してやっていく、行政として把握してやってもらわないといけないと思う。千代川小の児童会は大丈夫か疑問に思った。

【事務局】放課後児童会の開設場所に苦慮している中で、入会児童数が増えている傾向があり、31年4月については、第3教室を別の特別教室に移し、面積増で対応できるよう学校と協議し準備を進めている。千代川の他にも課題のある放課後児童会もあるが、32年4月から適正化が進んでいくので、現在の対応については31年度を中心に考えていきたい。

【会長】千代川小学校の児童が増えているというのは、何か要因があるのか。

【事務局】千代川は宅地開発が進んでいるので、その関係と聞いている。

【会長】計画を作るのに、計画を揺るがす程の人口増が起こるのか。全体像を見た時に、子どもが何人増えるのか、見えるのかどうか。3月末までに、これが作れない状況が起こると大変なので、いかがなものか。

【事務局】住民基本台帳ベースの年齢で、各学校区ごとに子どもが何人住んでいるかというデータがある。それも加味した中で、入会率を弾き出し、ニーズを計算したりという事は第1期計画でも入れている、4月以降計画を考えていく上では、今後5年間の各小学校の児童数の数値も加味しながら計画の目標値についても考えたい。

【委員】そこに都市開発は加味されているのか。

【事務局】都市計画と学校の設置の基準については、所管外であるため、この場では回答をご容赦いただきたい。

【委員】学校規模適正化の会議の時に千代川・大井は長期的に問題ないと聞いていた。それが最近千代川がすごく増えている。都市開発で児童数は付帯的に増えてくる。計画は何年も前から作っているのに、なぜそれが学校の教育の方には伝わっていないのか疑問。

【会長】第1期の計画を作る時に向日市のイオンの近くで人口が増えた。その時に子どもが住むのか、高齢者が中心なのか、住民票が出ないと役所では分からない。それが3月末の締め切りに間に合うかどうか。人が増えるのは分かるが、どの層が増えるのかは全く読めない、という事が起こると心配。

【委員】回収率について教えて欲しい。

- 【事務局】回収率は一般的。平均的。
- 【委員】直接当事者に配っているの、低い印象がある。
- 【委員】施策NO. 7、一時預かりの31年の見込が増えている理由は何か。
- 【事務局】31年度の見込みについては、当初計画の数字をそのまま計上している。次期計画で見直しを図りたい。
- 【委員】施策NO. 5地域の子育て支援事業だが、地域の小さな子育てサークルにも予算を回していただく方法はないのか。年間の場所代や材料費等。
- 【事務局】それぞれの地域に身近なところに小さくても拠点は必要だと考えている。すぐには難しいと思うが、事業計画を進める中で、ご意見を反映し、検討した上で進めたい。
- 【委員】就学前児童アンケートの問20・21、保育の量について、日にちや時間等どのような希望があったのか。
- 【事務局】利用したい事業については、報告書の概要版に載せているとおり。また、概要版には掲載していないが、1週当たりの利用希望日数については5日、1日当たりの利用希望時間については、8～9時間が一番多い。利用時間帯の希望としては、7時台からが1割位、一番遅い時間で19時台までが2%位いる。メインの時間帯は9～15時で9割以上の方が希望されている。
- 【委員】5年前のニーズと比べて長時間保育を望まれる方が増えているのか。8時間を超えてくると働き方とも関わる。亀岡市を取り巻く大きな枠として知りたい。
- 【事務局】それに関してはアンケートをした事がないので、今後どういう形というのは浮かばない。ご意見として参考にしたい。
- 【委員】アンケートで相談相手、頼れる人として身近な人に頼っている人が多いと見えてくる。働くお母さんが増え、子ども会やPTAの役員のなり手がいないので、子ども会の廃止やPTAの任意加入が増えている。そういうところから近所付き合いが薄くなり、子育てを頼れる人という繋がりが薄くなるという危機感を抱いた。公園の飛び出すボール遊び禁止の看板を見て、子育てしにくいと感じた。少子化は止まらない。このアンケートから考え直す機会になれば良い。
- 【会長】事業報告を聞いていると、人材確保が抜けている。今は人材確保を現場に任せている。現場が知らないと言ったら誰が責任を取るのか。個別の市町村でやる時代ではない。都道府県が人材確保の法律を作るよう要望を国に出し、保育士・幼稚園教諭の人材確保法という法律を国からトップダウンでやってもらわないと。事業報告で人が足りないと言っても増えない。人材派遣事業者に高額なお金を払っている世界になっているのが良い事なのか。
- 【委員】人材確保は大変。人材派遣を使わざるを得ない事もあるが、何でも規制緩和されたら守られるものも守れない。今まで経験した事のない課題に直面しはじめている。
- 【会長】事務局に皆さんの意見を引き取っていただき、今後の会議の中で活かしていただきたい。本日の議事を終了する。
- 【事務局】本日聞かせていただいた貴重なご意見等を踏まえながら、本日の子ども・子育て支援施策の総合的な推進に取り組んでいきたい。

5. 連絡事項他

【事務局】来年度以降の会議については、次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた協議等で複数回お集まりいただく事になる。日程については追ってご連絡する。

6. 閉会

・あいさつ（金田 副会長）

以 上